

中国地域ニュービジネス特別賞

表彰事業

貝殻魚礁「JFシェルナース」の設計・製作・販売

海洋建設 株式会社

代表取締役 かたやま けいいち
片山 敬一



受賞理由

JFシェルナースは、人工魚礁に用いる生物増殖基質に水産系副産物であるカキ、ホタテ、アコヤなどの貝殻を再利用している点に特徴がある。貝殻は自然素材で形状が複雑なことから、餌生物（エビ・カニ・ゴカイ類）の培養効果、幼稚魚の隠れ場効果や産卵効果が高く、競合するコンクリートや鉄のみを使用した製品に対し優位性を持っている。全国漁業協同組合連合会が「JFブランド商品」として認定し、JFグループが販売代理店として販売活動を行っている。22年度までに28道府県で9,000基が事業採用。近年の環境保全、リサイクル、生物多様性の保全に対する行政、住民意識の高まりも追い風となっている。生物増殖基質であるシェルナース基質（貝殻基質）は、漁業者が中心となって製作しており、漁業閑散期の副収入源ともなっている。平成19年、同社が発起人となって「貝殻利用研究会」を設立し事務局はJF全漁連が担当。その他、業界初のエコマークやバイオマスマーク、各県の環境ラベルなどを取得し、採用されやすい状況整備を行っている。

（ポイント）・同社は貝殻を使用した人工魚礁のパイオニア、特許15件。魚礁市場にはゼネコン、鉄鋼会社など100社以上が参入。

- ・貝殻は自然素材で形状が複雑なことから、餌生物（エビ・カニ・ゴカイ類）の培養効果が高く、幼稚魚の隠れ場効果や産卵効果などがある。
- ・全国漁業協同組合連合会が「JFブランド商品」として認定し、JFグループが販売代理店として販売活動を行っている。
- ・平成19年、同社が発起人となって「貝殻利用研究会」を設立。事務局はJF全漁連。
- ・今後は国土交通省（港湾）や環境省などの自然共生型事業への参入も狙っている。

事業概要

社長は漁業、潜水士を経て昭和58年に海洋建設(株)を設立。61年から貝殻を利用した魚礁開発に着手。平成4年のマダコ増殖礁の開発成功をはじめ6年には貝殻魚礁「シェルナース」を開発、15年に全国漁業協同組合連合会と連携し、JFブランド商品「JFシェルナース」の製作・販売を開始。20年には農商工連携88選に選定、また海洋環境改善・修復のための製品開発を始めた。学会発表等も積極的に行っている。今後は水産基盤整備事業だけでなく、自然共生型事業（生物多様性、地球温暖化防止）へも参入する。

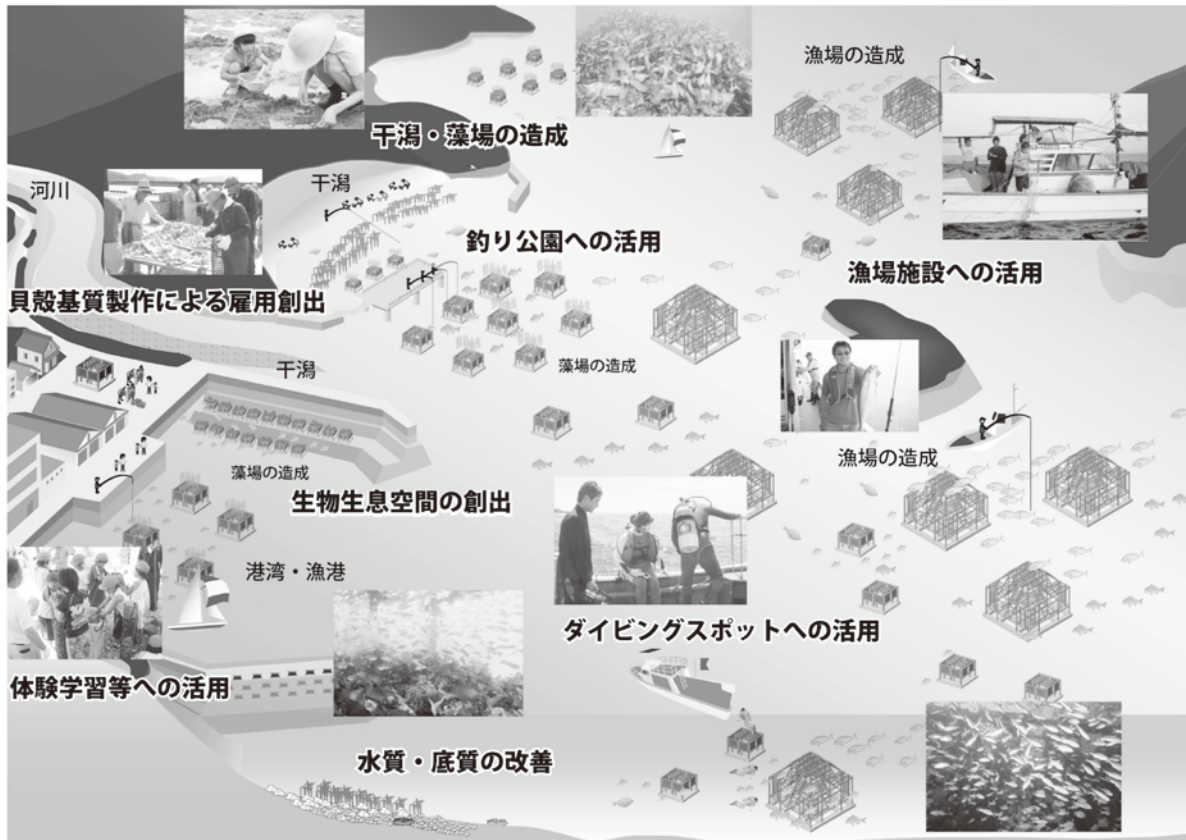
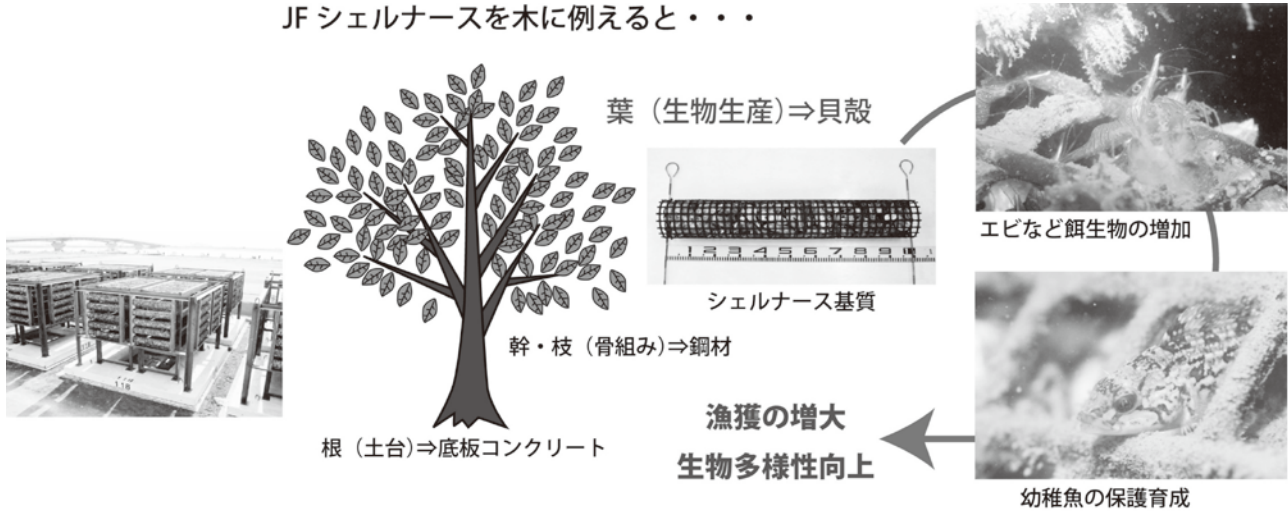
| | | | |
|-------|--------------------------|-------|---|
| 会社所在地 | 〒711-0921 岡山県倉敷市児島駅前1-75 | | |
| T E L | 086-473-5508 | U R L | http://www.kaiyoh.co.jp/ |
| 会社設立 | 昭和58年2月 | 従業員数 | 24名(平成23年4月1日現在) |
| 資本金 | 10百万円 | 売上高 | 987百万円(平成22年6月期) |

漁業者と共に豊かな海づくりに役立つ貝殻魚礁

『JFシェルナース』

JFシェルナースは、貝殻を有効活用した人工魚礁で、魚介類に対する餌料生産効果や幼稚魚の隠れ場、産卵場効果に優れています。また、貝殻を活用することでその処理費用を軽減することや、漁業者が製作に携わることで漁業閑散期における雇用創出、豊かな海づくりに対する意識の啓蒙にも貢献します。

JF シェルナースを木に例えると・・・



JF シェルナースを活用した豊かな海づくり